

事業所名 グループホーム悠遊荘

運 営 推 進 会 議 開 催 報 告 書

開催日時 令和3年8月25日（水）14時～15時	
参 加 者	議 題
町内会長 0名	※ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から予定しておりました運営推進会議の開催を中止とし、書面にて意見照会を行いました。 1 7月・8月活動報告 2 研修 3 ヒヤリハット 4 身体拘束適正化検討委員会 5 外部評価目標達成経過報告 6 質疑応答
民生委員 0名	
地域住民の代表者 0名	
市職員 1名	
地域包括支援センター職員 1名	
利用者 1名	
事業所 4名	
会 議 録	
1 7月、8月の活動報告 7月 5日（月）往診 6日（火）訪問歯科 2名 7日（水）七夕会（たなばたソーめん） 誕生日会 9日（金）ワクチン接種2回目終了 13日（火）訪問歯科 2名 15日（木）レク（焼肉パーティー） 23日（金）土用丑の日（うなぎ弁当） 25日（日）レク（たこ焼き、焼うどん） 27日（火）消防訓練 ・週4回（月、水、金、土） 訪問マッサージ（拘縮予防、筋硬直緩和のため）午前中 1名 8月 2日（月）往診 理美容 4日（水）ドライブ瀬戸周辺 3名 17日（火）訪問歯科 1名 24日（火）眼科受診 1名 ・週4回（月、水、金、土） 訪問マッサージ（拘縮予防、筋硬直緩和のため）午前中 1名	

2 研修

外部研修

8月27日(金) オンラインセミナー

「教育の体系化と研修プログラムの組み方」セミナー

①組織(施設)の目的・考えを明確にする

施設の問題点や課題を把握する。

②現場でどんなニーズがあるかを見つける

各従業者のスキル、役割を確認。

③①と②を基に研修内容を分析する

必要な研修：接遇マナー、自己啓発、コミュニケーション研修等

内部研修

7月25日(日)4名、28日(水)5名 2日に分けて開催 18時～19時半

福祉用具専門員より、終末期を迎えた利用者様のポジショニングについて、基礎知識と実技の研修を受ける。

8月19日(木)18時

職員会議にて基本的防災対策の理解(非常災害対策計画について避難方法など確認)

3 ヒヤリハット

7月31日(土)12時半

利用者の昼食後に飲む服薬が無い事に気づく。確認すると他の利用者の飲み終わった袋と一緒にゴミ箱に捨ててあった。気づいた時点で薬を飲んでもらう。

4 身体拘束適正化検討委員会

8月19日(木)職員会議にて開催

「身体拘束ゼロの手引き」より

・身体拘束はなぜ問題なのか？

(1)身体拘束がもたらす多くの弊害

身体的弊害 ①身体機能低下や褥瘡など外的弊害

②食欲低下、抵抗力低下など内的弊害

③転倒、転落、窒息等 大事故のリスク

精神的弊害 ①不安、怒り、屈辱など精神的苦痛

②更なる認知症の進行、せん妄の頻発

③家族への精神的苦痛

④スタッフのモチベーションの低下

社会的弊害 ①介護保険施設等に対する社会的不信、偏見

②本人のQOL低下、医療的処置の発生、経済的影響

(2)拘束が拘束を生む「悪循環」

認知症で体力低下の高齢者を拘束すればますます体力は衰え認知症が進む。

その結果、転倒やせん妄などの二次的・三次的な障害が生じ、その対応のためさらに拘束を必要とする状況となる。

最初は「一時的」だったものが時間とともに「常時」の拘束となってしまう、場合によっては身体機能の低下とともに高齢者の死期を早める結果にもつながりかねない。

5 外部評価目的達成経過報告

重症化及び看取りに関する指針について⇒終末期を迎えた利用者の介護について、尊厳に十分配慮した介護を行えるように職員間で対応方法を共有する。

7月25日及び28日にポジショニングの基礎知識と実技を学び、現場で褥瘡防止に向けて、毎日の介護に取り組んでいます。

6 質疑応答

①ヒヤリハットが発生した原因と今後の対策を教えてください。

原因⇒飲み終わった薬の袋と一緒にそばにおいてあったため、飲み終わったと勘違いして重ねて捨ててしまった。

対策⇒ゴミ袋を用意し、服薬したかどうかを確認してから捨てる。

②身体拘束について

前回の運営推進会議にてやむを得ず身体拘束を検討している方が1名いらっしゃるということでしたが。その後対応はいかがでしょうか。

⇒夜勤帯での起こりうる状況を想定してご家族様に同意をいただいておりますが、現在は想定した状況が無く、やむを得ずの身体拘束を行っていません。

③コロナ渦の中で終末期を迎えられた利用者様の介護の対応の様子をご家族様へどのように対応されていますか？

⇒面会を控えさせていただいているため、文書や動画、電話などでマッサージの様子や食事の様子をお伝えしています。

次回開催予定 10月 27日(水)